

宇品橋

■ 橋の概要

宇品橋は、2000年に完成した橋長639.5mの橋梁で、広島市内を流れる京橋川を跨いで、広島市中区と南区を結んでいます。宇品橋は、中区（写真奥）側から、橋長198mの6径間連続鋼鈑桁橋、支間長103mの単弦ローゼ橋、橋長208mの4径間連続パイプアーチ橋、支間長40mの単純鋼床版鈑桁橋、および南区（写真手前）側に位置する橋長57.4mの2径間連続鋼鈑桁橋で構成されます。

このうち、単弦ローゼ橋については、橋全体の景観を考えて、アーチリブ（道路上に見える円弧状の鉄骨）は六角形断面で、しかも橋の長手方向に断面の大きさが変化するという大変製作の難しいものが用いられています。さらに、このアーチリブは、2本のパイプを介して桁につながっています。一方、パイプアーチ橋は、下弦材（道路面より下に位置する円弧状の鉄骨）にパイプが用いられており、非常に特徴的な概観を形成しています。

■ 撮影者からひとこと

宇品橋は、2006年の4月1日、山口県の錦帯橋と大島大橋を撮影した帰り道にデジタルカメラで撮影しております。撮影当日は、土曜日でしたが、橋上を通行する自動車のうち、特にトラックや路線バスが多かったことが印象的でした。写真は南区の宇品（広島港）側から撮影しております。

■ 撮影者

大阪大学大学院 工学研究科

地球総合工学専攻 社会基盤工学部門

特任助手 三好 崇夫

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘 2-1

大阪大学大学院工学研究科

地球総合工学専攻 S1 棟 628 号室

TEL：06-6879-7599

FAX：06-6879-7601

E-Mail：miyoshi@civil.eng.osaka-u.ac.jp